

戦争と国民

～戦争プロパガンダと戦時下の国民生活の読み解き～

昭和学院高等学校 神山 知徳

1 実施学年及び教科・領域

高等学校 第3学年 地理歴史科 日本史探究（4単位）

2024年4月中旬（2時間扱い）、授業開き

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

（1）単元名「授業開き 絵本とポスターから、過去に学ぶ意味を知る」

（2）ねらい

① 学習指導要領との関連

いわゆる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の手段として、学習指導要領でも博物館や資料館、図書館などの公共施設を積極的に活用することが推奨されている。他方博物館側も展示方法に工夫を凝らし、より具体的に当時の姿をイメージしやすい空間にすべく、リニューアルオープンを果たしている。

博物館の展示を読み解き、そこから自分なりの歴史解釈・叙述を試みる行為は、日本史探究の中項目（3）の学習の特徴（主題を踏まえた考察と理解）で目的とされた「時代を通観する問いや仮説を踏まえ、資料を活用して、各時代の歴史の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて、深い理解に至る学習」（『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説歴史編』203ページ）の具体例として位置づけることができる。

さらに令和4年度から高等学校地歴科公民科で実施に移された歴史総合と地理総合、公共という必修の新科目、およびその上位科目である世界史探究・日本史探究・地理探究などは、従来の社会科系教科を大きく再編した。このうち特に公共が新設された背景には、学校教育において「主権者教育」が叫ばれ、裁判員制度や18歳選挙権などの導入に伴う法教育が強く意識されていることがある。これら新科目には「主体的・対話的で深い学び」であって、「よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連動・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」という目的が共通する。

ところで裁判員制度や18歳選挙権は、政府が国民に対して強く統治機構への参加を求める場面で導入されている。ここから見えてくるのは、国家に組み込まれた個人が「自己責任」の名の下に行動することへの期待である。しかしこうした動きは必ずしも国民を幸せに導くものではない。それは過去の歴史が証明している。ならばこうした危険性に対して、教育現場、特に歴史教育ではどう心がけるべきか。それは過去に学び、歴史的な文脈の中で物事を客観的に捉える確かな目を持たせることである。

そこで過去に学ぶのに最も有効な方法の一つは、学習者にとって身近な資料を使って歴史事象を自分ごと化することと考える。それでは、ここでいう「身近な」とは具体的に何を指すのか。それは物理的な時間や空間などの近さや、心理的な近さ（共感）などである。歴史資料を教材とする場合、時間の距離は縮めようがないが、地理的、年齢的な近さや近親者などの血縁的な近さなど、心理的な「親しみさ」で補うことができる。

② 単元の目標

この単元はもともと高校1年生の歴史総合（2単位）の中で実践する予定（単元「経済危機と第二次世界大戦」）であったが、授業時数がとても足りず、高校2年生の日本史探究の授業開きで実施しようと考えた。ところが高校2年生の日本史探究の授業担当から外れたため、実践の場を高校3年生の日本史探究に移さざるをえなかった。それでも高校3年生は最初に歴史総合を実践した学年でもあるため、かつての歴史総合で学んだ学習の成果をここで確認することにも意味があると考えた。

そこで今回この実践では、絵本『父さんはどうしてヒトラーに投票したの？』（ディエ・デニクス、訳湯川順夫）と、歴博第6展示室の戦争ポスターを使った授業を構想した。前者の絵本の中の「ぼく」は、ヒトラーが政権についた1933年当時5才、楽器店を営む父と母、母のお腹の中にいる妹の4人家族である。何も知らない、純粋である意味ニュートラルな立場の「ぼく」と、ヒトラーに感化される父、それを冷静にみる母、先天的に障害を持つ妹で構成され、それぞれの立場でナチス政権下を生きることになる。様々な立場からなる登場人物に自分の身をおき、ラストシーンで戦地から帰還した父に対してタイトルの通り「ねえ、父さん、父さんはどうしてヒトラーに投票したの？」と「ぼく」が父に尋ねるというものである。

後者のポスター群は、第6展示室の「銃後の生活」「戦場の実相」のコーナーに展示されていたもので、視覚的に戦争協力を促し、戦意高揚を図ろうとしている。特に日中戦争期以降は国家による戦争プロパガンダの絶頂期ともいえ、現在の高校生の眼に、それがどう映るかを検証したい。

そこで今回の実践では、3観点別の目標を以下のようにしたい。

〔知識・技能〕世界恐慌・昭和恐慌以降、日本・ドイツにおいて国民はどのようにして戦争協力をするようになり、敗戦していったのかを理解し、戦時体制とは何かを概念としてとらえることができる。

〔思考・判断・表現〕絵本や戦争ポスターの読み解きから、戦時体制でどう国民を「自発的に」動員していったのかを表現することができる。

〔主体的に学習に取り組む態度〕マスコミによる報道や政府発表の意図を客観的に読み取る姿勢をとることができる。

（3）博物館との関連

① 活用方法 非来館型

② 活用予定の資料（次頁参照）

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）の常設展示第6展示室のうち、戦争ポスター「富国強兵」（ポスターA、以下同様）、「護れ興亜の兵の家」（ポスターB）、「まごころに樺をかけて援護にも示せ日本の底力」（ポスターC）、「撃ちてし止まむ 貯蓄報国運動」

〔本時で使用したポスター〕

A



「富国強兵」

徴兵保険は、男子が成人するまで掛け金を積み立てていき、入営した際には保険金・社員配当金を支払うという、もの。学費や結婚資金にも活用できる貯蓄であるというのが宣伝文句だった。保険の勧誘員には退役軍人が多く採用され、制服姿で家門を回ったという。富国徴兵保険相互会社（現 フコク生命）は1923（大正12）年創業

B



「護れ興亜の兵の家」

戦後奉公強化運動は、出征兵士家族などの生活困難を防ぐために政府が行った啓発運動。軍人援護会はそのためになされた官制団体で、各道府県に支部があった。

C



「まごころに襦（たすき）をかけて 援護にも示せ日本の底力」

昭和時代の女性の象徴ともいえるのがかっぱう着と襦（たすき）。明治時代に調理場や学校で働く女性が使う作業着として誕生し、その便利さから大正時代には一般家庭に普及した。戦争中には、国防婦人会や愛国婦人会の制服として採用された。

D



「撃ちてしまむ 貯蓄報国運動 戦ふ皇国に捧ぐる貯蓄」

政府は、戦費調達のために国民に貯蓄を呼びかけ、集まったその金を兵器製造などにあてていた。

E



「男女要員募集 隼も艦も戦車も たのおぞ増産」

戦争の激化とともに、政府は軍需品増産のため各市区町村に国民勤労動員署などを設置し、多数の国民を労働力として動員していった。

F



「武装台湾 徴兵令下る 栄光の九月一日」

1944（昭和19）年、台湾・朝鮮でも兵役法（1927年制定）が施行され、徴兵制がしかれた。

G



「陸軍少年飛行兵 操縦 技術 通信」

陸軍少年飛行兵募集ポスター（昭和18年）。同じ展示室内に、海軍甲種飛行予科練習生徴募ポスターが展示されている。

（ポスターD）、「男女要員募集 たのおぞ増産」（ポスターE）、「武装台湾 徴兵令下る 栄光の九月一日」（ポスターF）、「陸軍少年飛行兵」（ポスターG）の7点を使用し

た。ポスターA～Cはデザインに女性や子ども、割烹着を着た女性をイメージする襷を使用したもので、特に家庭での銃後の守りを鼓舞するものである。ポスターD・Eは貯蓄報国運動や軍需品増産を呼びかけるものでモデルは男性である。ポスターF・Gは、兵士として徴兵される雄々しい台湾人や、颯爽と飛ぶ陸軍機が描かれている。

（４） 指導観

今回担当したクラスは高校３年生（文系）で、例年であれば８割弱が４年制大学へ、残り２割強が短期大学や専門学校に進学する生徒からなる（就職は若干名）。ただし年内受験（総合選抜型や学校選抜型）で受験する生徒が多数派で、最初から年明けの一般選抜試験を受けようとする生徒はやや少なめである。高校１年生の時に歴史総合を受け、高校２年生で公共（３単位）、日本史探究（３単位、分割履修）を受けた生徒である。高校３年生（４単位、分割履修）では、江戸幕府の成立から現代までを扱う。

このような状況であるから、いわゆる受験科目として日本史探究を使う生徒は多数派ではない。一応現代まで履修するが、日本史を、歴史を学ぶ意味に真剣に向き合わせる機会はそう多くない。当該生徒は、幸いにも高校１年生の時に歴史総合で担当した学年でもある。そこで歴史総合を受けての日本史探究で、戦争に協力していく人々の気持ちにもよりそいつつ、よりよい「未来の創り手」として何ができるのかを考えさせたい。

１時間目の授業で使う『父さんはどうしてヒトラーに投票したの？』では、父の気持ちになって「ぼく」の最後の問いかけに答えさせ、２時間目で使う戦争ポスターでは、７点のポスターの読み解きを通じて客観的に戦争プロパガンダの効果について学び、戦争の時代について叙述させたい。

3 指導計画（2時間扱い）

1 限目 ヒトラーとその時代

※本時の最初の20分間は、授業ガイダンスに充てている。

段階	時間	○学習内容 ●学習活動	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	5分	○『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』の内容の確認。	■絵本の内容を理解できる。（知識・技能）で1冊用意し、事前に読み回す
展開①	7分	○「ヒトラーが政権を掌握し独裁政治をしくまでの過程を学んで、ヒトラーに対する印象は変わりましたか？」 ○「印象はどう変わりましたか？具体的に教えてください。」 ●Google formに入力する。	■絵本を読んで、既存の知識と比較し、表現することができる。（思考・判断・表現）
展開②	13分	○「「ぼく」が最後に「お父さん」が問いかけます。「ねえ、父さん、父さんはどうしてヒトラーに投票したの?」と。あなたが「お父さん」だしたら、どう答えますか？」 ○「もしあなたが「お父さん」だったら、ヒトラーに投票しましたか？それともしませんでしたか？その理由は？」 ●Google formに入力する。	□なぜヒトラーを支持したのか、子どもに語りかけるようにわかりやすく記述するようにする。3文以上、かつ接続詞（できるだけ順接を避ける）を用いるようにする。 ■文脈に沿って、的確に表現することができる。（思考・判断・表現）
まとめ	5分	○「どうすればヒトラーの巧みな選挙戦術や宣伝に騙されることがなく、正しい判断をすることができるだろうか。思うところを自由に記述しなさい。」 ○最後に「日本ではどうだったのだろうか?」と問いかけ、考えさせる。 ○振り返りを行う。 ●Google formに入力する。	□自宅学習課題とする。 ■日本の事例を念頭において、課題に沿った記述ができる。（思考・判断・表現） ■本時の内容について、興味・関心を持った点などを指摘できる。（主体性）

2 限目 日本の戦争ポスターから何を読み取るか

段階	時間	○学習内容 ●学習活動	□指導上の留意点 ■評価の観点
	5分	○前時の宿題「どうすればヒトラーの巧みな選挙戦術や宣伝に騙されることができなく、正しい判断をすることができるだろうか。思うところを自由に記述しなさい。」の紹介	■前時の学習内容を踏まえて、的確に表現できる。（思考・判断・表現）
導入	20分	○NHK for school「戦争と国民生活～日中戦争と太平洋戦争」（10分間）を観る。 https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120318_00000#in=0&out=600 →「一番印象に残ったことを最低3点、それぞれ簡単な説明を加えて記述しなさい。」 →「日中戦争から太平洋戦争にいたる時代はどのような時代だったか、二文以上（順接以外の接続詞を必ず使用）で説明してください。」	■動画の内容を理解できる。（知識・技能） ■動画の内容から最も印象に残ったものを選び出し、的確に説明を加えることができる。（思考・判断・表現） ■1930年代後半から敗戦に到る時代について、自分の言葉で表現できる。（思考・判断・表現）
展開①	20分	○歴博第6展示室の戦争ポスターを観る。 ○「最も意欲をかき立てられる戦争ポスターはどれ？戦争ポスターA～Gより、興味を惹かれる資料（戦争の意欲をかき立てられるもの）を一つ選び、その理由を考えよう。」 ○「戦争ポスターA～Eのうち最も興味を惹かれたポスターについて、説明文を作ろう。」 ●Google formを入力する。	■戦争ポスターA～Gの特色を把握し、その狙いを的確に表現できる。（思考・判断・表現）
展開②	5分	○「「戦争ポスターからみる戦時下の日本」というテーマで、解説文を書きなさい（200字前後）。」※自宅学習課題とする。 ○本日の振り返りを行う。	□自宅学習課題とする。 ■展示キャプションを想定しての説明文の作成。（思考、判断、表現） ■振り返りシートを入力する。（主体性）

4 実践の概要

1 限目 ヒトラーとその時代

- もしあなたが「父さん」だったら、ヒトラーに投票しましたか？それともしませんでしたか？

→「する」、「しない」がほぼ拮抗

- 「ぼく」が最後に「父さん」に問いかけます。「ねえ、父さん、父さんはどうしてヒトラーに投票したの？」と。あなたが「お父さん」だとしたら、どう答えますか？

【回答】お父さんは今思うと間違った選択をしてしまったかもしれない。なぜなら、あの時はヒトラーがこのドイツを、世界を救ってくれると信じていたから。でもこれは言い訳に過ぎないと思う。お母さんは、元々ヒトラーはダメと言っていたのだから。こんな世の中になるなんて、、、。なぜヒトラーに投票してしまったのだろうと後悔をしている人が沢山いると思う。

→（感想）あの時はヒトラーがこの国を救ってくれるのではないかと信じていたけど、言い訳に過ぎないと思う。という点は納得できる。疑問に思うところはない。

（感想）こんな世の中になるなんて誰もわかっていなかったから仕方ないことだと思った。

（感想）お母さんはヒトラーのどんな点を見てダメだと言っていたのか。ヒトラーに投票して後悔している人はどんな点に後悔しているのか。

（感想）あとあと冷静に考えたらほとんどの人がこの意見になると思う

- どうすればヒトラーの巧みな選挙戦術や宣伝に騙されることなく、正しい判断をすることができるだろうか。思うところを自由に記述しなさい。

【回答】話し手の言うことを全て鵜呑みにするのではなく、自分でその人の言っていることを噛み砕いて理解することが大事。ヒトラーに限らず物事の本質を見抜くために意識していることは自分の言葉に置き換えること。他の人が話しているとよく聞こえてしまうので、自分の言葉に置き換えて相手が何を伝えたいかを理解することで本質を見抜くことができると思う。

→（感想）納得できる。自分の言葉に置き換えることによって、相手の考えに洗脳されずにきちんと自分の意見を持つことができると思う。

（感想）自分の言葉に置き換えて理解するのはとてもいいと思った。だが、洗脳されている状態であれば、自分の言葉で置き換えたところで洗脳状態から抜け出すのは難しいと考える。

（感想）ヒトラーの演説は本当にすごかったのだと思う。だから、国民のほとんどが騙されてしまったのだと思う。

○ 第1限の実践の成果と感想

・自分をその当時の「父さん」に身を置いたとき、およそ半数が「ヒトラーを支持する」と回答している。その一方で、言い訳のようにヒトラーに投票したことを悔いたような発言を想定している。

→視点が「現在を生きる私たち」と「過去に投影した私たち」の二つにずれていること

に注目。これをどう克服するか。

・自分をその当時の「父さん」に身を置いて、それが困難なことを自覚しながらも、どうすれば客観的に物事を見ることができるのか、あれこれと思考をめぐらしている。

(例)「同じ言葉の反復や言い換え、感情を揺さぶってくるような言葉に注意を払う。」
「物事の本質を見抜くために意識していることは自分の言葉に置き換えること」など。
→特定の主張や政策の目的を客観的に見抜く、「より良い未来の創り手」となってほしい。

2 限目 日本の戦争ポスターから何を読み取るか

- ・戦争ポスターA～Gの特色を把握し、その狙いが的確に表現できるか。
- ・最も戦争の意欲を駆りたてられる戦争ポスターを選択し、それが何故なのかを考える。
- ・「戦争ポスターからみる戦時下の日本」という解説文を作成する。

○ どの戦争ポスターに最も興味を惹かれたか。

・A（富国強兵）、C（まごころに襷をかけて援護にも示せ日本の底力）、E（男女要員募集）がトップ、次にG（陸軍少年飛行兵）の順

○ A（富国強兵）を選んだ理由

- ・子供まで戦争に参加してるって感じがしたから。
- ・母親と子どもが笑顔で旗を振っていて、明るいイメージがあるから。
- ・将来自分の子供にもしものがあつた時のために使うことができるから。また戦争の資金だけでなく結婚の資金にも使えるのがいいと思った。
- ・母親に抱えられている少年が国の象徴である日本国旗を掲げており、国民が一致団結していることがわかるから

○ A（富国強兵）の説明

- ・小さな子供と女性が誰かを応援しているように、日本の国旗を振っているところが描かれている。富国強兵と書かれていて、国を豊かに、強い兵をつくることを意味している。
- ・このポスターは戦時中の国民の様子を表したポスターである。幼い子供が日本の旗を掲げている。これは徴兵保険は男子が成人するまで掛け金を積み立てていき、入営した際には保険金、社員配当金を支払うというものである。このように当時の小学生がさらに幼い子供たちも国のため、日本のための義務を果たさなければならなかった。

○ B（護れ興亜の兵の家）を選んだ理由

- ・兵士の家族も、生活の中での負担が増えて苦しいと思うけど、このポスターを見た時に、みんな大変だからわたしも頑張ろうと踏ん張れそうだなと思ったから。また、踏ん張るだけでなく使命感を感じ、やらされるじゃなくて自発的に頑張ろうと思えそうだったから。

○ B（護れ興亜の兵の家）の説明

- ・出征兵士家族など生活が困難な方のため、銃後奉公強化運動に参加してください。生活困難な状況を防ぎます。

○ C（まごころに襷をかけて援護にも示せ日本の底力）を選んだ理由

- ・心という漢字を襷をうまく使って必という字にして絵の工夫がしてあり 1 番印象に残ったからと底力や示せなどやる気を引き立たせる文字も含まれているから。
- ・襷を使っているところから、日本が一つになって戦おうとしているのが伝わる。
- ・女で戦場に行けなくても、国を支えられる、国の力になれると思わせられるから。
- ・真ん中の漢字が心・必にも見えてどっちを伝えたいのかを考えさせられ、人物や戦争の風景が描かれていなかったからこのポスターを選んだ

○ C（まごころに襷をかけて援護にも示せ日本の底力）の説明

- ・心に襷をかけて必ずという字になっている。昭和時代の女性の象徴とも言えるかっぱう着と襷を使っていて女性の力も必要としている。
- ・女性向けのポスターで、女性は戦場に行って戦うわけではないが援護でしっかりサポートができるようにまごころ込めて生活していきましょうというポスター。
- ・「心」という字に襷をかけることで「必」となるなどの発想によって目に留まりやすいポスター。そして「援護にも示せ日本の底力」という言葉が女性も日本に貢献できるという一体感を生み出す。

○ D（撃ちてし止まむ）を選んだ理由

- ・戦争の相手国のアメリカの国旗を破っている軍隊の人が印象的だったから

○ D（撃ちてし止まむ）の説明

- ・日本兵がアメリカの国旗を破いている。苦しい環境でもアメリカを倒すという気持ちを表している。
- ・戦禍で戦闘資金が足りなくなってしまった政府がアメリカを倒すために必要な資金を集めるためにアメリカの国旗を破った絵が描かれたポスターが作られました。
- ・撃ちしてやまむは「敵を倒したら戦いをやめよう」という意味だが逆に言えば敵を倒すまで戦いをやめないということ。

○ E（男女要員募集）を選んだ理由

- ・男女どちらとも必要とされている感じがある。
- ・「頼むぞ増産」と日本の勝敗は国民にかかっているという人間の使命感を上手く使って、人々の労働の意欲を掻き立てるようにできてる考えられたポスターだなと思ったから。
- ・男女ともにどのようなことをしていたのか気になる。

○ E（男女要員募集）の説明

- ・戦争の激化と共に、国民は労働力として、女性や子供問わず働かされていた。当時の日本はまさに総力戦であった。
- ・戦争が激化し、物資不足となってしまった。そこで国は国民の男や女を労働力として使い、総戦力体制で戦争に挑んだ。

○ F（武装台湾）を選んだ理由

- ・絵がかっこよかったから。

・新たに徴兵される台湾の方々をイラストにより伝えらたことで、自国のために頑張っている人が可視化されたようで、大義のように感じた。

○ F（武装台湾）の説明

・このポスターは、台湾、朝鮮で兵役制度、徴兵制が出されて、みんなが強制的に軍隊に編入させられたことを示している。

○ G（陸軍少年飛行兵）を選んだ理由

・訓練の結果どんな風に活躍できるのかが一目でわかり、戦争意欲がかき立てられるから。

・特攻隊を連想させる、戦争参加への生々しい感覚を感じられるから。また、戦闘機を描くことで他のポスターよりも戦争の現実味をおびているから。

・青年たちが飛行機の格好良さに憧れて自分も国のために働きたいとなる。

・当時の環境的に飛行機に乗る機会がなく、空に憧れる人が多そうだから。

○ G（陸軍少年飛行兵）の説明

・陸軍少年飛行兵とは、日本陸軍の航空兵科現役下士官となるため、10代の男子志願者から選抜されて陸軍の航空関係諸学校で教育を受ける者。

・陸軍少年飛行兵募集 飛行兵として操縦できる人を募集している。技術的な練習ができる。

○ 戦争ポスターからみる戦時下の日本（200字程度）

（回答1）戦争ポスターは、日本の戦時下の生活を視覚的に表現する重要な手段だった。これらのポスターは、国民に対して徴兵、節約、戦時産業への支援などのメッセージを伝えるために使用された。また、戦争プロパガンダも含まれ、国民の士気を高めるために使われた。戦争ポスターは、食糧や物資の節約、軍需産業への協力、戦意の高揚など、日常生活のあらゆる側面に影響を与えた。（172字）

（回答2）戦時下のポスターについて僕は当時の日本の状況や価値観を反映していたと思う。戦時中の日本は激動の時代であり、国民は戦争への協力や国家への忠誠を訴えるプロパガンダが広く展開されポスターには、国民に対する戦意高揚や節約、防空意識の向上などのメッセージが描かれていた。戦時下のポスターを通じて見る日本には、国家と国民が一体となって戦争に臨む姿や、苦難に立ち向かう強さや団結力を感じさせられた。（190字）

（回答3）国民に対して戦争への協力や応援を呼びかけていました。ポスターには節約や勤労奉仕、戦争への支援を促すメッセージが掲載され、国民の士気を高めるためのプロパガンダが展開されていました。また、敵国や敵軍を揶揄するイラストやスローガンも使用され、国民の対外敵意を煽る役割も果たしていました。戦時下のポスターは、当時の社会情勢や政府の方針を反映し、国民に対して戦争への積極的な参加を促すための重要なツールとして活用されていました。（209字）

（回答4）どのポスターを見ても、「護れ」や協力を促すような文が書かれており、戦時下ではお年寄りから小さな子供の意識全てが戦争に集中していたことが読み取れる。若い男性は全員戦場に行くので空襲から身を守るのも自分たちでしなければいけない

し、必要不可欠な衣食や日用品も配給制となり、小学生は集団疎開のため親元を離れ、男子は戦争で戦うための訓練、女子も工場などで働かなければいけなかった。武器を作るために家にある鍋や釜、寺院の仏具や鐘などの金属類も国に強制的に回収された。このように、戦時下では自分のやりたいことも我慢し日常を捨ててまで、「祖国の為に」と国民が一丸となって協力して、戦争に貢献していた。(289 字)

○ あなたが 1930 年代後半から 1945 年までの戦争の時代を生きたとしたら、どう行動しただろうか？順接以外の接続詞を使って、二文以上で記述しなさい。

- ・戦争に参加したくないという意味はあっても周りの雰囲気流されたり、弾圧されることを恐れて参加してしまったりしてしまうと思う。でも、不安なことで溢れている世の中に耐えられず、正気を保てないと思う。
- ・国のためというよりは家族のために戦争に参加していたと思う。また、戦争に参加しないという選択肢は余程のことがない限り許されることではなかったのではないかなと思う。
- ・今の気持ちでその時代に行ったら自分がどうにか生き残りたいって思うかもしれないけれど、その当時の時代を生きていたら、ポスターや学校での教養で洗脳されて国のために、戦ってくれている兵隊さんのために何事にも必死になって毎日を生きていたと思う。また、そういう面では今の日本は命をかけてでもして守りたいと思えるような国なのか？と問われた時に誰もが守りたいと思える国ではないのではないかなと思った。日本が好きかと聞かれたら好きと答える人がほとんどだと思うが、まともな選挙立候補者がいなかったり、今の若者が日本の政治に興味を持てなかったりするの、ただ興味がないのではなくて希望を持ってない日本に大人がしているんじゃないかなと思う。まだ選挙に立候補もできない自分たちは、自分たちが希望を持てるような人に投票し、もし戦時中に自分が生きていたらこの国を守りたいと思えるのかを考えるべきだと思う。

○ 今戦争が始まりそうだとします。あなたは政府による戦争プロパガンダをどう見抜きますか？順接以外の接続詞を使い、二文以上で説明しなさい。

- ・自分が辛い状況だと不安になって視野が狭くなってしまうと思うので、一度自分なりに噛み砕いて理解するところから始める。そのためにも、ヒトラーの学習の時にあったように、政府の言葉を自分の言葉に変えてみて本当に正しい事を言っているのか、本当にその選択をしてもいいのかを客観的に捉えてみる。
- ・自分たちは経験したことないからわからないけど、戦争が始まるってなったら焦るし、プロパガンダを見て協力するという気持ちより「怖い、逃げたい」という気持ちが強くなってしまうと思う。しかし、これだけの授業を受けたからから、自分にできることや役割をして強い気持ちで戦わなければいけないと感じたので、自分にできることを考えると思う。
- ・SNS に上がっている様々な情報や意見を沢山見てみる。でもそんな時には SNS は政府に規制されていて、それを見ることができないかもしれない。
- ・国からすべての国民が戦争は正しい、敵国は絶対的悪だと教え込まれれば戦争プロパガンダを見抜くことは困難だと思う。しかし、少なくとも見抜く方法はある。例えば、

根拠のない噂を信じない、実際に沖縄戦で政府が流した「アメリカ兵に捕まれば酷いことをされる、そうなる前に自殺をすべきだ」と噂を混乱に陥った住民たちは信じ大勢が集団自決をした。このように噂を信じたことで亡くなった命があるため根拠のない噂を疑う、そうすることで敵国は絶対的な悪だという戦争プロパガンダを見抜くこともできると思う。

・今は SNS やメディアなどで簡単に情報やデマが広まる時代であり、政府からの正当な情報を見抜くことが難しいと考えられる。そのため物事の因果関係やネット情報の「鵜呑み」をやめ、表現の仕方や発信者の背景を思考できるように情報リテラシーを身につける。

5 成果と課題 - 「戦争ポスターから何を読み取るか」と「戦争の時代をどう生きるか」

○ 日本の戦争ポスターについて

・性別・年齢を問わず、戦争への一体感が重視されている構成が生徒の興味を引いている。

○ 国家による戦争プロパガンダをどう見抜くか

・共通するのは、1930 年代から 1945 年までの戦時下のドイツや日本であれば、戦争に抗うことは不可能であるという認識。その一方で、現在であれば、持てる情報リテラシーを駆使して何とか反対（積極的にも消極的にも）するという意見が圧倒的に多い。

○「ヒトラーの絵本や戦争ポスターの学習を通じて思ったことを自由に書いてください。ただしその際は、順接以外の接続詞を使って、二文以上で説明しなさい。」

・ヒトラーのやり方は自分たちに従わないとどうなるかと危機感を煽って、従ってくればこうするよと良いことを言って、日本はみんながやってるからとかみんな苦しいのは同じと協調性や仲間意識を持たせていると思った。しかし、どちらも国民性やトップのやり方が異なるだけで、やっていることはプロパガンダであり、国単位で動かす必要のあるものでは、こんなにも徹底的に国民を囲い追い込むのかと思った。

→プロパガンダの恐ろしさを実感。

・ヒトラーの独裁政治ではヒトラーの演説や仕方など洗脳させるかの内容だったが、戦争ポスターも同じで、ポスターを国民の目に嫌でも入るくらい町中に貼っており、それも洗脳することだなと思った。ヒトラーの場合は自分や周りは冷静な判断を下さなきゃいけないし、戦争ポスターについては国民が一丸となって国のために頑張らなきゃいけないのだなと思った。

→日本の戦争ポスターについて、やや肯定的な見解？

・実際に過去にはこの日本で戦争が起きていて、男性たちはもちろんのこと私たちと同じくらいの子たちや女性たちも工場や調理場で働くなどして戦争に貢献していたことを改めて知ることができました。戦場に行く男性たちだけでなく、日本国民全員が団結して戦っていたことは日本の底力だなと思いました。しかし、戦争は自分の命や大切な人の命をも奪ってしまう残酷なものなので、二度と起きてはいけないと今回の学習を通して学ぶことができました。

→戦前の日本について、やや肯定的な見解が含まれている？

・一人の強い勇敢な人がいたらその人について行きたいと思うのは当たり前だけど、その裏でその人言った言葉を自分の言葉に置き換えて考える必要があると思った。また戦争について、ポスターは日本の価値観を反映していたと思うし、国民の士気を高めるためにも必要な存在だったのかなと思った。

→これも戦前の日本について、やや肯定的な見解が含まれている？

※ヒトラーやナチスがやっていたことについては、完全に否定的な見解となっているが、自分たちの祖父母、曾祖父母達が生きていた戦前・戦中の日本については、完全に否定し切れていない。

○ 本実践のまとめの感想から

・視点のズレ（「現在を生きる私たち」と「過去に投影した私たち」の二つ）については、それを克服しえないものとして捉えるのではなく、これをどう乗り越えていくかを考えたい。

→「じゃあどうすればよいのか。」と具体的に考えさせ、より高次の認識に高めていく、腑に落ちる、納得できる論理をつかませる途を考えてゆきたい。

・戦争ポスターは戦争の実相を示しているものではなく、政府が望む望ましい国民像をあらわしているものと捉えたらどうか。そう考えれば、ポスターを読み取るにも、「現実にはどうなの？」という史料批判を行うことになる。自ら時代の実相が見えてくるかもしれない。

○ 本実践のめざすところ（＝「自分事化」、より良い社会を創る「未来の創り手」を育てる）をめぐる批判、疑義、反論

- ・結論を求めすぎていないか。
- ・問題提起だけで良いのではないか。
- ・ある意味超歴史的に解決策を求めるのはどうか。歴史教育の求めるところではない。
- ・むしろ現在の方がまずい状況にある。超歴史的に考えさせるのではなく、今日の状況を考える材料にした方が良いのではないか。
- ・この実践を授業開きに実施するのではなく、通常の授業の導入で行ってもいいのではないか。

参考文献

- ・文：ディディエ・デニックス、訳湯川順夫他『父さんはどうしてヒトラーに投票したの？』株式会社解放出版社、2019年
- ・小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」をしたのか？』岩波ブックレット、2023年
- ・貴志俊彦『帝国日本のプロパガンダ 「戦争熱」を煽った宣伝と報道』中公新書、2022年。
- ・三橋昌平「戦争ポスターを使った授業」『学校と歴博をつなぐ - 令和3年度・令和4年度博学連携研究員会議実践報告書』令和5年
- ・三橋昌平「戦争ポスターを使った授業／地域史料と結び付けて」『学校と歴博をつなぐ - 令和元年度・令和2年度博学連携研究員会議実践報告書』令和3年
- ・栗林幸雄「戦争と平和を学ぶ歴史学習」『学校と歴博をつなぐ - 令和元年度・令和2年度博学連携研究員会議実践報告書』令和3年
- ・栗林幸雄「戦争ポスターを活用した平和学習」『学校と歴博をつなぐ - 平成29年度・平成30年度博学連携研究員会議実践報告書』平成31年
- ・秋山寿彦「「戦争ポスター」を読み解き、「戦争ポスター」を作成・表現する歴史学習～教科間連携を視野に入れたアクティブな学び～」『学校と歴博をつなぐ - 平成27年度・28年度博学連携研究員会議実践報告書』
- ・中沢典明「「戦争ポスター」で戦時生活にタイムスリップ！」『学校と歴博をつなぐ - 平成24年度・平成25年度博学連携研究員会議実践報告書』平成26年
- ・秋山寿彦「「グローバルスタンダード」に立脚した中学校の歴史学習の試み - 国立歴史民俗博物館展示室紹介パンフレット作成とプレゼンテーション活動を通して - 」『学校と歴博をつなぐ - 平成24年度・平成25年度博学連携研究員会議実践報告書』平成26年
- ・浅野伸一「遠隔地における授業実践 - 戦時中のポスターを利用して - 」『学校と歴博をつなぐ - 平成22年度・23年度博学連携研究員会議実践報告書』

以上